



令和6年度 第12号
令和6年6月14日
熊本市立本荘小学校
校長 西川 英臣

6月はいじめ根絶強化月間です。加えて、今年度は「心のきずなを深める月間」と名付けています。

毎年、6月は「いじめ根絶強化月間」として学校朝会でも、「いじめを根絶する話」をこの3年間やってきました。校長室に名刺をもらいに来た子どもたちもとても多かったですね。

今年度は、いじめに対して「勇気をもって立ち向かうこと」をテーマにしたお話をしました。以下にその全文を掲載しましたので、ぜひ、ご家族でお読みになって、子どもたちと一緒に考えていただければ幸いです。



6月5日(水) 学校朝会「心のきずなを深める月間 勇気をもっていじめに立ち向かおう」

みなさん、おはようございます。今日は今から大切なお話をしますね。よく聞いてください。

毎年、6月は「いじめ根絶強化月間」として、この世の中から、いじめをゼロにする取組みをしてきました。本荘小学校でも同じです。ですので、校長先生も本荘小に来てからずっと、6月は「いじめをなくす」ためのお話をしてきました。今からお話することも、「いじめをなくすにはどうすればよいのか」についてです。また、今年度からは「いじめを根絶」するだけではなくお互いの「心のきずなを深める」月間にしたいと思います。一人一人が心のきずなを深めていけば、いじめは起こらないからです。

いじめの多くは、スタートがちょっとした「からかい」や「冷やかし」です。「いじる」なんて言葉でごまかそうとする場合もあるようですが、軽はずみな言動から深刻ないじめに発展したケースも多いのです。校長先生がいつも言っているのが、わかると思うのですが、自分以外の誰かのことを真剣に考え、思いやりの心をもって接することが大事なのです。でも、いじめが目の前で起きてしまうことも少なくありません。そんなときに、あなたがたはどうしますか？今日は一人の少年のお話をします。

その少年が小学校5年生の時のお話です。その少年は、優等生ではありません。先生方からほめられることもあんまりなく、むしろ、失敗をしてしかられることの方が多い少年でした。スポーツができるわけでもなく、お勉強もそんなにより成績だったわけではない、普通の平凡な子どもです。その子どものクラスメイトに、ここではたかし君としますが、それほどお友達ではない子どもがいました。

たかし君は小さい頃にお母さんを病気でなくしていました。気がやさしすぎるおとなしい少年でしたが、いつもさびしげな表情をしていました。だからなのか、クラスの意地悪な子どもたちからからかわれたり、時には、こづかれたり、暴力をふるわれることもあったのです。少年もクラスの他の人たちもいけないとわかっていたが、けんかの強い人たちがやっていたのもあるし、毎日ではなく時々だったので、「やめろ」といえないまま、毎日が過ぎていたのです。たかし君はやさしい人でしたから、からかわれても、だまって我慢することの方が多かったのです。そして、誰のことも責めませんでした。でも、その目に涙が浮かんでいたことはみんな知っていました。でも、先生に相談する人もおらず、なんとなく毎日が過ぎていったのです。

ある日、少年が学校から帰っていると、たかし君が一人で帰っていました。すると、二人の子どもが後ろから追いかけてきて、たかし君をからかいはじめました。きっと、彼が一番悲しむ、お母さんのことでからかっています。最初はがまんして、知らんぷりをしていたたかし君ですが、とうとう泣き出してしまいました。(裏面へ)



それでも二人はからかうことをやめませんでした。少年は、最初はめんど
うなことにかかりたくはありませんでした。けんかが強いわけでもないし、
相手は二人もいるからやられるにちがいないとも思いました。(見なかったこ
とにしよう。)心の中で、そう何度も思いました。でも、でもです。目の前で
何もしていないお友達がずっとからかわれているのを見ていると、我慢でき
なくなったのです。少年は二人のこどもにとびかかっていました。「たかし君
にげろ！」そう言ったような気がします。でも、そのあとのことはあんまり
覚えていません。顔がひりひりしていました。鼻血も出ていたようです。お
母さんからは「なんで、けんかなんかしたのよ。強くもないのに・・・」と

あきれられました。少年はけんかをしてしまったのです。1対2です。ずいぶんやられたようでした。

次の日、担任の先生から事情をきかれました。少年は正直に自分のしたことを話しました。がまんができなかつたこと、たかし君を助けたかったこと、先生は黙って聞いてくれました。

その後、みんなの前で、たかし君がからかわれることはなかったように気がします。でも、本当にいじめがなくなつたのかについてはわかりません。少年がやったことはよかったですでしょうか。相手に暴力をふるったこと。これはいけませんよね。でも、いじめを許そうとしなかったこと、これは評価できるのではないかなと思います。

いじめをなくすには、「みんな」でいじめをなくしていこうとすることが重要です。からかい、おふざけ、その中にいじめのサインがないか見逃さないこと、いじめが起こらないようにみんなで声をあげていくこと、そして、少年のようにいじめを許さないための行動を起こすこと……。みなさんはできますかね。

少年は、大人になって50年近くも前のことを「暴力はいけないけど、けんかしてやられちゃったけど、見て見ぬふりをしなかったことと、勇気をもっていじめに立ち向かえたことだけは自分の強さになったと思う。」と振り返っています。

みなさんのまわりで、もし、こんなことがあったらあなたは、どうしますか？今月の漢字一文字は、「勇」です。みんなで心のきずなを深め、勇気をもっていじめをなくしていきましょう。そのためには、「笑顔」と「思いやりの心」なのですよ。

運動会も終わりましたが、みなさんよくがんばりましたよね。6月も「思いやりの心で笑顔の本荘小」にしましょう。これで、校長先生のお話を終わります。

道徳の資料のようですが、実話です。ずいぶん前の時代でもあり、今の世の中といろいろな状況が違うのかもしれませんが、しかし、当時からこのような「いじめ」はあっていました。身長や体形、本人にはどうしようもないことを言われて、悔しい思いをしていた人もいたでしょう。「好きな人」のことを取り上げられてからかわれたり、変なあだ名をつけられたりして、いじめられた人もいました。お母さんの名前を取り上げられてからかわれていた中学時代の友人もいました。でも、その友達は毅然とした態度で「何言ってた。おれとは関係ないじゃないか」と言い返していました。同級生ながら感心していたことを覚えています。今読まれている方々も、同じような経験をされた方、少なくないと思います。こどもたちには、この少年のように、私の同級生のように、勇気をもって、毅然といけないことをいけないと言える「勇気」を育ててもらいたいと思う校長先生です。そして、自らに「いじめをしない力」を身に付けてほしいのです。先日、あるこどもに「あのね、友達とけんかになるような嫌な言葉使ったらだめだよ！」「一緒にこの学校で生活するのだから、お互いが、毎日ニコニコ笑顔になれるような努力をしないといかん。」「自分ばかり笑顔じゃいかん、相手も笑顔になるように行動するんだよ。」と指導しました。私は、教師として「いじめがなくなるまで」こどもたちに指導をしていきたいと、自らのライフワークとしたいと考えています。

本荘小学校のこどもたちのためにも(^)♪(校長) ※今回は、「校長先生の虫眼鏡」はお休みします。